

誇り

～このまちの未来を担う～

【はじめに】

「このまちに産まれて本当に良かった」

「このまちに暮らして本当に良かった」

「このまちに生きて本当に良かった」

このまちに係わる全てのひとが、真に誇りと思える厚木・愛川・清川を創りたい。

厚木青年会議所全てのメンバーがこの想いを昇華させ、一丸となって結束し、このまちの未来を担い、このまちの誇りとなることは、我々に課せられた使命であります。全てのメンバーが今を生きる青年として、地域のリーダーとして、さらには厚木青年会議所の一員であることの誇りを胸に、率先した行動を実践して参ります。そして謙虚に、決して背伸びすることなく、しっかりと地に足を付けた活動を行い、多くの汗をかき、夢と情熱を忘れることなく素直な心を持って、今できること全ての運動を全力で展開して参ります。

【市民意識変革運動としてのまちづくり】(まちづくり)

国家そして地域社会の発展なくして、個人の発展はありません。一方、個人の発展なくして地域社会や国家は成り立ちません。個人は家族や地域に生かされ、そして家族や地域は個人によって支えられているのです。だからこそ、我々は個人の利益ばかりを追求するのではなく、公に対して貢献していくこと、すなわち利他の心を持って行動することが求められ、これこそが青年会議所活動の本懐であると考えます。地域との関わりを持たない人が増え、己が良ければ良いという利己主義や金が全ての拝金主義、道徳倫理の欠落が散見される現代社会を打破すべく、利他の心をより多くの地域市民に共有して頂き、大きなうねりとして意識変革へと繋げていくことが、青年会議所として実現すべきまちづくりなのです。青年会議所のメンバーを中心とした個々の想いが、家族や同僚などの身近な人へ、さらにはその周囲の人へと伝わり、社会全体が利他の心を持ち、誇りを持ってまちを良くしようという想いに溢れることを目指そうではありませんか。

「無関心ではいられるが、無関係ではいられない。」政治と個人の関わり合いを表現する際に、このような言葉を用いることがあります。そして、民主主義国家の成熟度を測る指標のひとつに「political participation (政治的な参加)」が挙げられることがあります。これを地域社会で考えるならば、地域市民の積極的な政治参加なくして、そのまちの成熟が進まないことを意味しているのではないのでしょうか。昨年、選挙権年齢が現在の20歳以上から18歳以上に引き下げられ、さ

らに多くの若者が社会を構成する責任を負う時代がスタートしました。また政治のみならず、行政に関してもまちの未来を自分たちの手で、自分たちの力で創り出す、という想いを多くの地域市民が共有することが、明るい豊かな社会の実現へと繋がる第一歩であると私は考えます。地域の課題や取り組みに対し、多くの地域市民が共に考える機会を創出することも、青年会議所が行うことのできるまちづくりのひとつなのです。

自らの行動が己を変え、ひとを変え、まちを変える、とはよく言われますが、厚木青年会議所単独の事業のみならず、行政や他団体の主催する事業にも積極的に関与することは、メンバーひとりひとりの行動が、地域市民の意識変革やまちづくりへと繋げる為のさらなるきっかけとなると考えます。地域市民に対してこれまで以上に運動発信を行うことを目指し、様々な場面において、私たちの想いを伝え、背中を見せることで、政治・行政やまちづくりに対する地域市民の意識を高め、このまちの未来に対する想いを共有することとなるのです。JCIミッションを直訳すると「青年が積極的な変革を創造し開拓するために、能動的に活動できる機会を創出する」となります。自らが変革の能動者たらんことは勿論のこと、このまちに変革をもたらすべく、積極的に行政や他団体と係り合い、共に行動することが必要なのです。

【未来を担う人財を育成するひとづくり】(ひとづくり)

子供は未来を担う人財であり、教育こそが国家の礎を築く最も重要な政策であることは言うまでもありません。教育は家庭や学校教育を前提に考えることは勿論ですが、社会や地域全体で子供に接することで、「このまちに生まれて本当に良かった」と誇りを持って思える地域愛を育むことも非常に重要であると考えます。本厚木駅周辺の都会環境と神奈川県央地域最大の雄峰、大山のふもとに広がる自然環境が共存するこの地域特有の魅力にしっかりと幼少期から触れることが、地域愛醸成のきっかけとなると考えます。

また社会や集団での行動規範や、おもいやりといった利他の心を伝えることも未来を担う人財を育成する上で非常に重要な要素となります。幼少期より当たり前のように利他の心を持って行動する子供たちは、素晴らしい未来のまちを創り出してくれることでしょう。その今を生きる子供たちに、地域愛や利他の心を教えるのは、今を生きる青年の担いでもあるのです。

一方、こうした社会や地域全体のコミュニティの中で子供を育てるということは、昨今の環境変化の中で実現が難しくなっているのも事実です。いつの時代もその時々を社会を支え、子供の教育にあたるのは大人たちです。子供を育てる立場である親、さらに言えば地域の大人たちが共に地域の子供を育てるという意識を高めることで、厚木青年会議所が中期スローガンとして掲げている未来への絆をしっかりと繋げていくことになるのです。子供と一緒に大人が学び、未来を生きる子供たちのために大人は子供の模範となり、行動をしなければなりません。

【回遊性を意識した事業の推進】(回遊性)

2014年度、18年ぶりに主管をさせて頂いた第42回神奈川ブロック大会において、県内各地の青年会議所メンバーそして地域市民の皆様へ、厚木・愛川・清川の魅力を存分にお伝えすることが出来

ました。そして行政を始め、関係諸団体とさらに強く太い繋がりを築かせて頂きました。今年度はその地域の魅力をさらに増幅させ、新たに作り出すことも求められる1年となります。

2010年に立ち上げた「回遊性のある広域的なまちづくり構想」実現は我々が活動する地域のさらなる発展に向けた大きな第一歩であり、より具体的に行動を起こす時期を迎えています。この地域で活動をさせて頂いている機会を活かし、それぞれが持つ観光や商業、自然環境など地域特性を広範囲で連携させ、その相乗効果によってまちの新しい魅力を創造することに挑戦をし続けたいと思います。そして地域の魅力を発信する場のみならず、行政や地域の団体を繋げ、地域コミュニティ創造の場としても重要な位置付けとして参ります。過去、この構想に携わってきた多くのメンバーの想いを受け継ぎながら、そしてその検証を踏まえながら、現在の厚木青年会議所らしい取り組みを行い、地域の活性化や経済的な還流も踏まえて事業を推進して参ります。そこでは従来の手法にとらわれず、近隣地域や各行政との連携もさらに強化しながら、今一度厚木青年会議所全メンバーの意識醸成を図ることも大切であると考えます。我々の活動地域が厚木・愛川・清川と一市一村一町に跨ることの意味をしっかりと認識し、そのメリットを存分に発揮した運動の展開をして参ります。

【共にまちの未来を担う人財の発掘】(会員拡大)

まちの未来を担う地域の青年リーダーが増えることは、地域への運動の発信力に繋がり、その推進力となります。会員拡大こそが、まちづくり運動そのものであると言われる由縁でもあります。我々が誇りを持って組織としての方向性、真の目的を伝えきれば、必ずや会員拡大は出来ます。しかし、拡大の為の拡大になってしまっただけでは何の意味もありません。

「このまちの未来を担い、このまちの誇りとして共に行動をしませんか？」そんな言葉が全てのメンバーから自然と出てくる拡大活動を目指します。メンバーひとりひとりが、自らの言葉で熱く青年会議所を語るからこそ、会員拡大の第一歩であります。このまちが少しでも良くなって欲しいと願う心や、このまちの為に何か自分でも出来ることがあるのではないかと感じる、意識が高く、志ある青年はまだまだこのまちに潜在しているはずです。その青年たちと共に、まちの未来を語り、共にこの地域の未来を担おうではありませんか。そしてかつて100名LOMであった誇りを胸に、多くの青年をこの運動に巻き込もうではありませんか。

【未来を担う為の会員資質向上】(会員開発)

人は人でしか磨かれない、経験こそが人を創る、とは青年会議所活動の中でよく耳にする言葉です。厚木青年会議所の一員として、さらには青年経済人として地域社会や行政からの信頼を得る為には、メンバーひとりひとりが自己成長を遂げることが重要です。そして、我々がこのまちの未来を担い、このまちの誇りとなる為には、青年会議所活動を行うと共に、社会の一員として豊富な知識と高く確かな見識を持ち合わせるひとりの人間であることが必要なのです。また、仲間と大いに議論をしながら、様々な経験を積み、一步ずつ前に進むことにより己を成長させることは、個人にとっても今後生きる人生の糧となるでしょう。そのきっかけとなる環境が、この厚木青年会議所には多数存在しているのです。メンバーひとりひとりが成長し、会員資質の向上をすることが、厚木青年会議所がまちに必要とされる団

体として存在をしていく礎となります。我々ひとりひとりが己を成長させ、誰からも認められる人間となれた時、我々が組織として目指し、行うべき事業がより地域市民の共感を呼び、大きなうねりへと繋がられる原動力となるのです。

また、全てのメンバーに対し、自分自身がリーダーとして行動する事の自覚を促さなければなりません。メンバーひとりひとりが地域のリーダーとして、地域の誇りとして行動するに相応しいリーダーシップを身に着けることが、組織としての強化にも繋がるはずです。未来をイメージする力や自らの意志を持ち、率先して行動する事など青年会議所活動を通じてリーダーシップを育てて参ります。

【厚木 J C 的ガバナンスの確立】(総務)

全てのメンバーが同じベクトルを向き、このまちの未来を担う誇り高き志を持った集団として存在する為には、個々の成長はもちろんのこと、機能的な組織としての成長を図る必要があります。公益社団法人としてスタートして8年。時代の先駆者として先輩諸兄が築き上げた組織の土台をさらに発展させ、積極的な変化を恐れずに、メンバーの誰もが厚木青年会議所の未来を担える公益性と透明性をさらに高めた枠組み作りを行います。我々の運動を対外的にそして効果的に展開する為には、組織運営、会議運営の重要性は今後も増すばかりであり、毅然とした機能的な組織こそが地域の信頼を得ることができるのです。

組織を活性化させるためには、縦の関係のみならず、メンバー同士が所属委員会や会議体の垣根を越えて横の繋がりを持つことが重要です。縦と横の繋がりが有益的に絡み合う関係を作り、より強固な組織として一体感のある運営を実現します。時には刺激し合い、競い合い、励まし合い、そして助け合い、結束する組織としてのガバナンス「厚木 J C はひとつ」を構築します。その為には、SNSなどの文明の利器を利用したコミュニケーションのみならず、face to faceの機会を数多く創出します。さらに、各担当委員会が魅力ある例会を開催するのはもちろんのこと、メンバー間の意識変革を促し、全メンバーへの連絡を徹底、例会出席率の向上を目指します。

【未来へと繋がる積極的な運動発信】(広報渉外)

厚木青年会議所は、今この地域において必要とされている団体でしょうか。その活動内容はもちろんのこと、何を目的に、どんな活動をしているのか、しっかりと地域市民に理解されているのでしょうか。

市民意識変革運動を実現する上で、地域市民へ J C 運動を情報発信し、その趣旨目的を効果的に周知させることは、全国各地の青年会議所においても昨今の大きな課題であります。広く社会に運動を発信するために、インターネットなどを活用したタイムリーな情報提供に努めるのはもちろんのこと、対外的なメディア戦略を積極的に展開し、そのパイプを構築することで未来に繋がる運動発信を行います。また、対外的メーリングリストの配信など、地域市民に対し効果的な情報発信を行う基盤を構築します。さらには、過去に蓄積した広報手法をブラッシュアップをさせ、厚木青年会議所独自の広報戦略やその手法を確立致します。

また、日本青年会議所や各協議会が主催する各事業に積極的に参加することは、メンバーが新しい学びを得て、自己成長することにも繋がる為、様々なセミナーやフォーラムなどへの参加促進の機会を創

出して参ります。スケールメリットを活かした事業に参加し、そこで得た経験は個人にとってもかけがえのないものになるだけではなく、まちの未来を担う上でも必ず生きてくるものと考えます。

【千載一隅のチャンスを生かし、再びLOMへ】(出向)

全国には697の青年会議所が存在し、神奈川県内には21の青年会議所が存在しています。そこには数知れないチャンスや機会が存在し、このまちだけでは経験の出来ない気付きがあります。厚木青年会議所のメンバーであるという誇りを胸にさらに広いフィールドで躍動し、様々な経験値や手法をLOMへとフィードバックしてくれることを期待します。そしてその気付きが自分自身の糧となるだけではなく、厚木青年会議所の財産として積み上げていくことが組織としてのさらなる飛躍となります。

【50周年、さらにその先の厚木青年会議所に向けて】(中長期的)

2014年度より、中期スローガンを「繋げよう未来への絆、創りだそう地域の魅力!」と策定し、事業展開をして参りました。47年の歴史の中で無数に生まれてきたメンバーの「熱い思い」をさらに未来へと繋ぐことが大切です。また、各事業を通じ、新たなものを創造し、地域の魅力を生み出すことも必要です。青年会議所の特性である単年度制の良さを活かしつつも、社会情勢や地域特性の中で中長期的な視野を持って活動することで、次代の厚木青年会議所へと歩みを進めなければなりません。

【結びに】

このまちに生まれ育ち、このまちで暮らし、このまちで仕事をする。そしてこのまちを愛し、このまちの未来の為に行動すること、それは私にとって必然でありました。己が住み、仕事をし、家族と共に生活をするこのまちがより良いものであって欲しい、という単純で素朴な想いがそうさせているのでしょう。そんな私に厚木青年会議所を始めとする多くの先輩諸兄が見せてくれた背中は、まさにこのまちの未来を担う背中でありました。

中国の古い諺に「二師三兄五友」という言葉があります。私は厚木青年会議所で公私ともに様々な経験と人生の糧を頂き、良き師、良き兄、良き友と出会うことが出来ました。その全てにより、今の私が存在しているのです。だからこそ、今、厚木青年会議所全てのメンバーと同じベクトルを向いて行動し、このまちの誇りとなるべく、必死に、汗をかいて行動したい。多くの素晴らしい気付きを共有したい。そして、10年、20年先を見据え、今一度厚木青年会議所の礎を築きあげたい。

私を育ててくれた厚木青年会議所に、そしてこのまちに全身全霊を傾け、厚木青年会議所の誇りとしてJC運動に邁進することをお誓い申し上げ、結びとさせていただきます。

いつの時代も志高き青年が、その時代の困難を打ち破ってきた。

今こそ、このまちの未来を担い、このまちの誇りとなろうではないか。